

もっと

とう ろう れき し たん ぼう
虫 螂 歴 史 探 訪



野田市立北部中学校
1年2組 小嶋 菜緒



ハナカマキリ



メダマカレハカマキリ



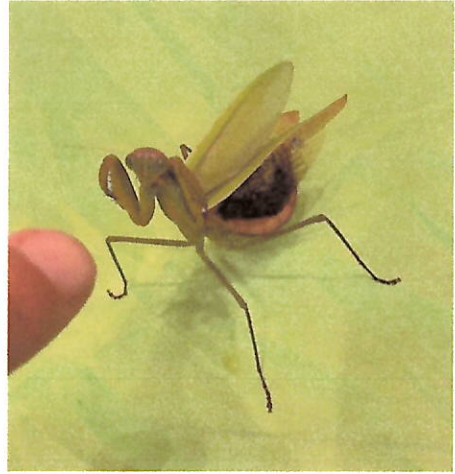
目次

昨年度のまとめと今年度の研究	1-4
第1章 そもそもカマキリってどんな生き物？	5-15
第2章 図書館で調べる	16-25
1. 伊藤若冲ってどんな人物？	
2. 私が見たい若冲の作品ベスト5	
3. 『虫を食べる文化誌』から得た3つの学び	
4. 『大江戸 虫図鑑』から得た7つの学び	
5. 昆虫食にカマキリ？！	
第3章 いざ京都へ！	26-37
第4章 関東地方で歴史探訪	38-45
まとめと振り返り	46-48
来年度の探訪計画	49
参考資料	

昨年度のまとめと今年度の研究

私は4年間、オオカマキリ、ハラビロカマキリを飼育し、生態を研究してきました。

昨年度からは、**日本人がカマキリとどのように関わってきたのか**を歴史、文学、芸術という視点から本やインターネットで情報を収集し、フィールドワークを行っています。特に、弥生時代の銅鐸にカマキリが彫られていたのを見て、弥生時代から、カマキリの存在は知られていたことにとっても感動しました。カマキリが弥生時代から米づくりなど、日本人の役に立っていたことを知ることができて、とても心が弾みました。



昨年度の研究で得たものと課題

成果①

カマキリは、「**螳螂 (とうろう)**」、「**拝み虫 (おがみむし)**」、「**いぼじり**」とも呼ばれている。

成果②

中国に故事に「**螳螂の斧**」というものがあり、日本に渡り、日本人の考え、文化に大きな影響を与えてきた。

春秋時代（紀元前8世紀）、齊の荘公が獵に出かけたとき、轍に螳螂が立ち塞がっているのを見つけた。大きな車に対抗してカマを振り上げていた螳螂に荘公は感心し、車を折り返して行った。このことから、「自分自身の力を過信して身の程をわきまえず、強い者に挑もうとすること（『まんが中国名言故事』より）」

成果③

螳螂が美術品に描かれていたり、武具にその姿があつたりしたことから、人々に親しまれ、特に**武士に好まれていた**こと。

成果④

日本だけでなく、中国の美術品にも螳螂が登場しているため、古くから様々な国で親しまれていた。



↑ 餐香宿艶図巻 沈南蘋
中国・清時代（18世紀）

成果⑤

弥生時代の銅鐸を見て、当時から螻蛄は稲を食する害虫を捕食してくれる**益虫**として見られていたことがわかった。

成果⑥

『平家物語』や『堤中納言物語』の「虫めづる姫君」など、日本の文学作品にも螻蛄が登場していた。

成果⑦

伊藤若冲や葛飾北斎などの日本を代表する画家によって描かれていた。

成果⑧

上野東照宮の透塀にも螻蛄の彫刻があった。

成果⑨

京都の祇園祭には螻蛄が乗った螻蛄山という山鉾がある。

成果⑩

中国ではカマキリの卵囊はや頻尿、夜尿症など、日本では小児のよだれ止めとして使われていた。

上記のことから、昨年度は

螻蛄は古くから日本人に親しまれてきた生き物である。

というまとめに至りました。



↑七宝向日葵螻蛄図花瓶 安藤七宝店
明治時代後期（19世紀）



↑上野東照宮 透塀の螻蛄



↑玄圃瑤華 紫陽花・冬葵 伊藤若冲

私が出会った蠅螂の作品年表

時代	美術品など	古典	芸能・祭り
縄文			
弥生	・扁平鈕式銅鐸		
古墳			
飛鳥			
奈良			
平安		『堤中納言物語』 『梁塵秘抄』	・蠅螂舞之頸筋
鎌倉			・祇園祭蠅螂山？
南北朝			・祇園祭礼図屏風 (資料によると南北朝)
室町	・祇園祭礼図屏風		
安土桃山			
江戸	・池辺群虫図 ・玄圃瑤華のうち冬葵 ・北斎漫画・草筆の部 ・上野東照宮の透塀 ・青貝微塵塗虫尽鞘合口拵	『虫歌合』 『訓蒙図彙』	・祇園祭蠅螂山 (からくりに関する記述)
明治	・七宝向日葵蠅螂図花瓶 ・猿猴弄蠅螂図額など		
大正			
昭和		『キンダーブック』	
平成			
令和			

研究テーマ

日本人は、蟻螂とどのように関わってきたのだろうか。

今年度は、昨年度できなかった課題を中心に調べ、深めていきます。

課題①

祇園祭礼図屏風を見る。

課題②

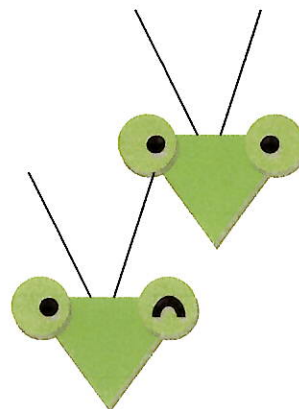
石清水八幡宮にある蟻螂の彫刻を見る。

課題③

伊藤若冲の他の作品を見る。

課題④

祇園祭の蟻螂山に関する情報を得る。




- ① 本やインターネットで情報を収集する。
- ② 蟻螂や伊藤若冲に関する展示が行われている博物館・美術館の情報が入るようアンテナを巡らせる。
- ③ 蟻螂の作品探しのフィールドワークを行う。
特に今年度は、京都を中心に探訪を進める。

いざ、京都へ！！

第1章

そもそもカマキリって どんな生き物？

今年度飼育しているカマキリたち

	<p>きり</p> <p>オオカマキリのメス。 体長 約 15 cm (触角含む) ハラビロカマキリよりも全体的に大きい。</p>
	<p>りり</p> <p>ハラビロカマキリのオス。 体長 約 9 cm (触角含む) メスに比べると小柄。 体が細い。</p>
	<p>まり</p> <p>ハラビロカマキリのメス。 体長 約 10 cm (触角含む) オスよりも体が大きい。</p>

① 日本にいるカマキリの種類

日本ではカマキリ科、ハナカマキリ科、コブヒナカマキリの 3 科、13 種が確認されています。

◎飼育したことのある種類 ●見たことのある種類 ・見たことのない種類

◎オオカマキリ

◎ハラビロカマキリ

●コカマキリ

●ムネアカハラビロカマキリ

・チョウセンカマキリ

・ヒメカマキリ

・ヒナカマキリ

・サツマヒメカマキリ

・ウスバカマキリ

・スジイリコカマキリ

・ヤサガタコカマキリ

・マエモンカマキリ

・ナンヨウカマキリ



↑ 2024 年に足立区生物園で見た
ハナカマキリ (東南アジアに広く
分布。)



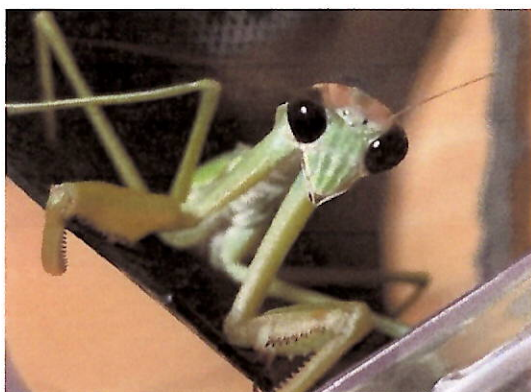
↑ 2024 年に見つけたコカマキリ
(両カマの内側に白と黒の模様
があり、体が小さいです。)



↑ 2023 年に見つけた
ムネアカハラビロカマキリ
(胸が赤く染まっています。)

② 体のつくり、機能

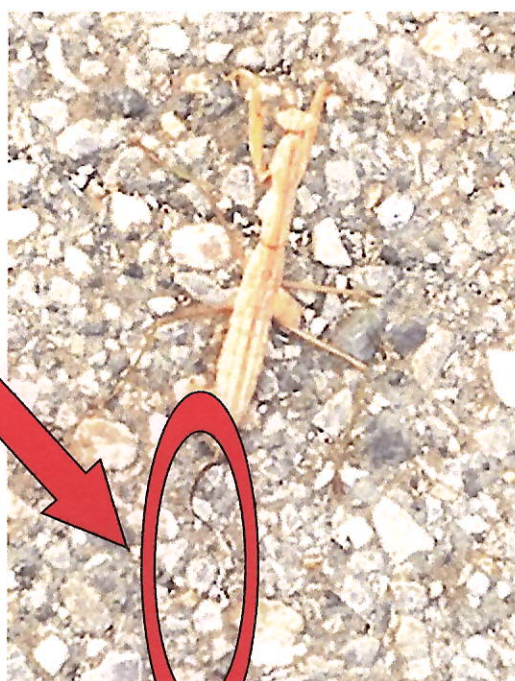
頭…逆角形の形をしていて、大きな眼は 360° 見渡すことができます。捕食をするときは相手の首から食べています。暗いところに長時間いると眼が真っ黒になります。 暗闇でも見る事ができるのです。



胸…鋭いトゲがたくさんついているカマが 2 本ついています。狩りをする際はカマの先端に生えている吸盤がついたものをたたみ、普段はその吸盤と中脚、後脚で生活しています

腹…節がたくさん入っています。私が過去に飼ったオオカマキリには、8 本の節で分かれていました。

ちなみにカマキリの寄生虫であるハリガネムシは、カマキリを水辺まで誘導し、カマキリの腹を破って出てきます。

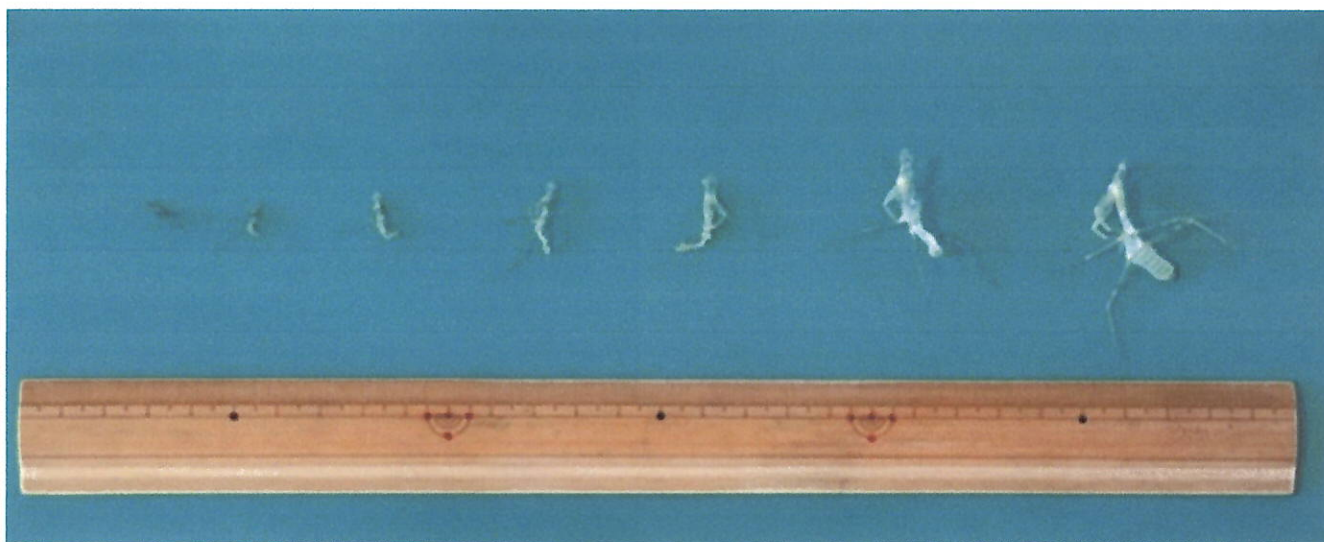


2023 年 8 月 16 日に
野田市の道路で見つけたハリガネムシに
寄生されたオオカマキリ。

③ 生涯

成長過程と実際の記録	ハラビロカマキリ ♀ミナ (2024年)	ハラビロカマキリ ♂りり (ミナの子 2025年)
卵鞘から孵化する。 1回目の脱皮 1齢幼虫	不明	5月27日(火)
2回目の脱皮 2齢幼虫	不明 ※6月11日飼育開始	6月6日(金)
3回目の脱皮 3齢幼虫	6月17日(月)	6月16日(月)
4回目の脱皮 4齢幼虫	6月25日(火)	6月22日(日)
5回目の脱皮 5齢幼虫	7月1日(月)	6月30日(月)
6回目の脱皮 6齢幼虫	7月20日(土)	7月18日(金)
7回目の脱皮 7齢幼虫 (最終幼齢)	8月4日(日)	7月26日(土)
8回目の脱皮(羽化) 成虫	8月19日(月)	8月2日 (金)
交尾(オスがメスに食べられてしまうことがある。)	8月31日(土)	
産卵	9月23日(月)	
亡くなる。	産卵後放したので不明。	

※個体や種類、餌の量など環境によっても期間が変わります。



↑ハラビロカマキリ♂りりの抜け殻(2025年)

黒色から白色に変化し、脚の黒い線が無くなっていきます。

ハラビロカマキリ♂りりの成長の様子



↑ 1 齢幼虫 (5月27日)

1匹ずつコップに入れて飼い始めました。ハラビロカマキリは1 齢幼虫から腹が上に反り、脚に黒い線が入っています。アブラムシを食べます。



↑ 2 齢幼虫 (6月6日)



↑ 3 齢幼虫 (6月16日)



↑ 4 齢幼虫 (6月22日)



↑ 5 齢幼虫 (6月30日)



↑ 6 齢幼虫 (7月18日)



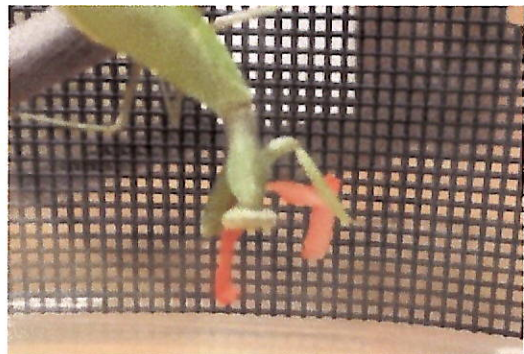
↑ 成虫

(羽化は京都に旅行中だったため撮影できず。)

④ 過去の研究でわかったこと

- ・カマキリは、エビやイカ、ヨーグルト、カニカマなど人間が食べる物も食します。
- ・羽化してから3週間経っていなくても交尾はできます。
- ・違う種類のカマキリだと交尾しようとしません。

カニカマを食べるハラビロカマキリ→



⑤ 羽化 (2023年8月14日オオカマキリの♀ミドリの場合)



① 16:37

腹を横に90° 曲げ、揺れていた。



②19:15

腹から皮を脱いだ。
縮んだ翅が出てきた。



③19:44

脚の皮を脱いだ。
翅は少し伸びた。



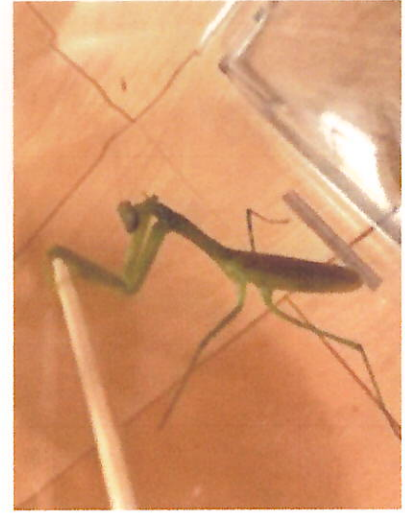
④20:00

皮を脱ぎ終えた。
向きを変え、翅を伸ばし始めた。



⑤20:25

翅が伸びきった。



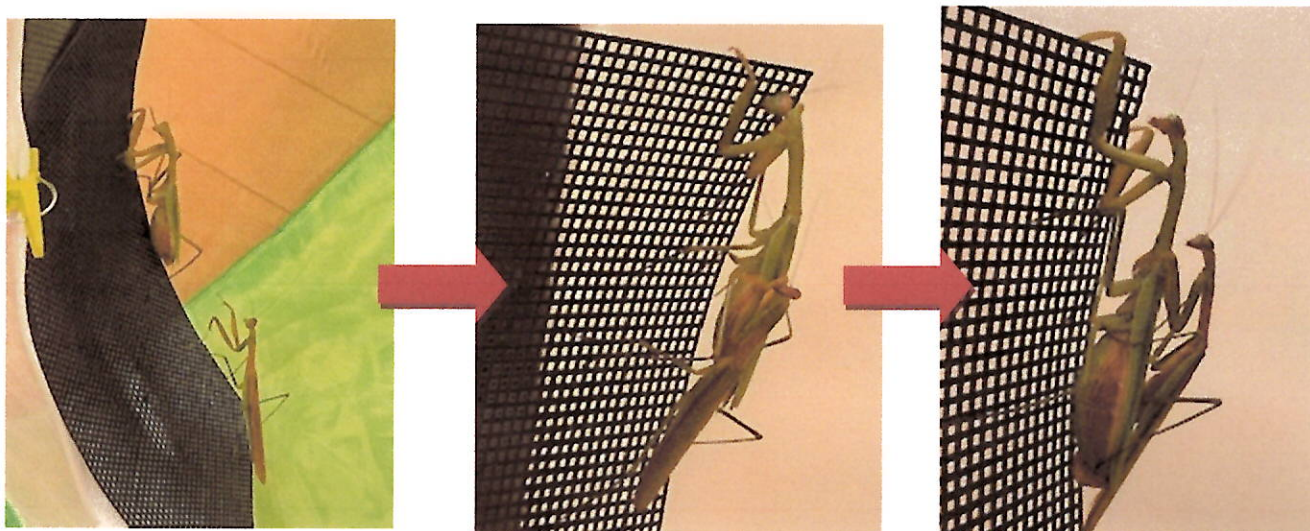
⑥1:15 (8月15日)

体が乾ききった。
羽化成功!

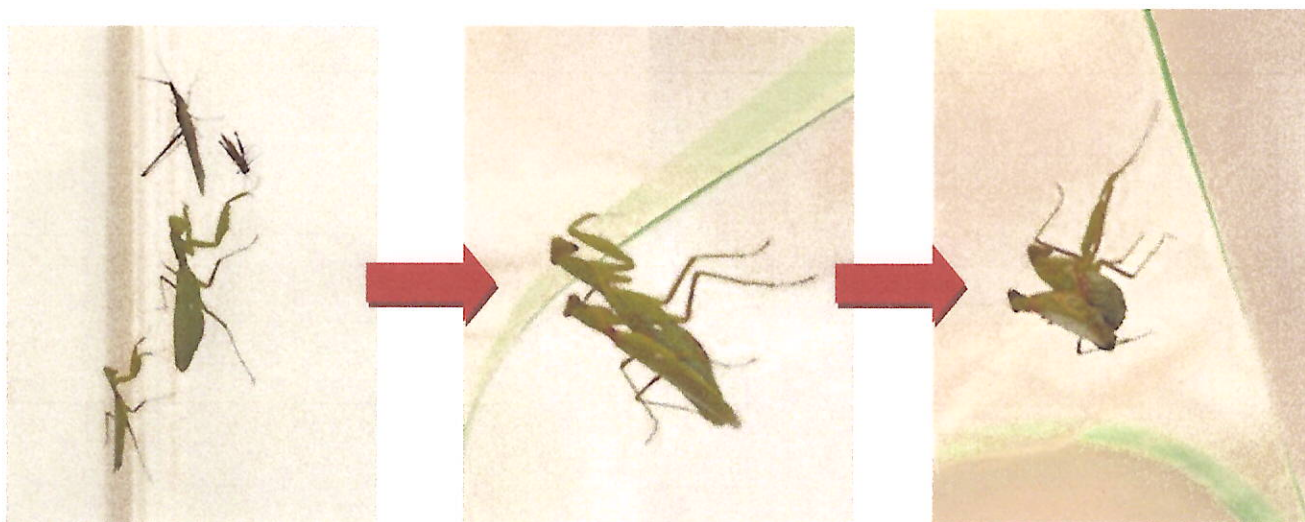
羽化には6時間以上かかりました。羽化したては透き通るような黄緑色の翅をしていましたが、時間が経つにつれて深い緑色になっていくのが美しいなと思いました。

⑥ 交尾

オオカマキリ (2023年10月8日 ♀ミドリと♂カマリ)



ハラビロカマキリ (2024年9月29日 ♀ツキ♂アサカ)



どちらのオスも背後からメスに近づき、気づかれないようにそっと背中に乗っていました。オスは腹を曲げ、メスの腹とつなげていました。

どちらも5時間以上交尾をしていました。交尾を終えると、オスは素早く飛び出しました。

本などで読んだとおり、命をつなぐ交尾も命がけだと知り、共食いもなく終わられて安心しました。

⑦ 産卵

オオカマキリ♀ミドリ (2023年10月17日)

このカマキリは羽化で足の先、カマの先にある節をなくしてしまったため、表面がつるつるとした虫かごでは歩くことができません。そのため、黒い網を使って生活をしています。通常のカマキリの産卵は逆さになって行いますが、このカマキリはそれが難しいため、下の写真のように産卵をしました。

なんとミドリは午後と夜の2回産卵しました。写真は2回目の産卵の様子です。1回の交尾で時間を分けて2回も産卵することを初めて知り、とても驚きました。頑張っ命をつないでくれました。



母が飼育していたオオカマキリ♀ (2024年11月3日)



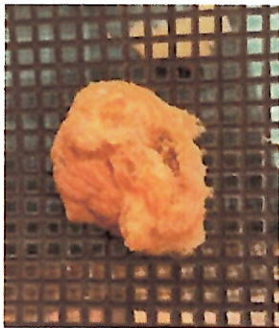
ミドリと違い、このオオカマキリは下を向いて1回のみ産卵しました。

ハラビロカマキリ♀ツキ (2024年10月5日)

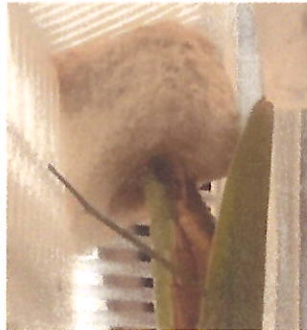
このカマキリは通常通りの向きで産卵を終えることができました。
卵囊を守っているようでかわいかったです。(右側の写真)



オオカマキリ ♀ミドリの1回目の卵囊



母のオオカマキリの卵囊 大きく丸みを帯びています。



色々な形や
大きさがあって
面白い!

ハラビロカマキリ♀ミナの卵鞘 真ん中に梯子のような線があります。



コカマキリの卵囊※左はハラビロカマキリ 細くて小さいです。



⑧ 孵化

ハラビロカマキリ① (♀ミナノ卵・2025年5月27日)



ハラビロカマキリ② (♀ツキの卵・2025年6月1日)



ハラビロカマキリの卵囊が2つ、オオカマキリの卵囊が2つありましたが、孵化をしたのは、ハラビロカマキリ2つでした。

オオカマキリは、一匹も生まれなかったため、ハラビロカマキリと何か違ったのかなと思いました。

初めて1齢幼虫を見て、生まれた時から脚にハラビロカマキリ特有の線があることを知り、とても驚きました。また、孵化した後に卵からぶら下がって脱皮をしていました。

1つの卵から、数えきれないほどのカマキリの赤ちゃんが出てきました。本では見たことがありますが、実際にそれを見ることができて感動しました。

第2章 図書館で調べる

1. 伊藤若冲ってどんな人物？
2. 私が見たい若冲の作品ベスト5
3. 「虫を食べる文化誌」から得た3つの学び
4. 「大江戸 虫図鑑」から得た7つの学び
5. 昆虫食にカマキリ？！



新しいことを知りたい！

1. 伊藤若沖ってどんな人物？

「よみがえる天才」伊藤若沖を読んでわかったこと TOP10

- ① 1716年、若沖は京都の裕福な青物問屋「枳屋」の長男として生まれ、4代目として育てられた。
- ② 伊藤若沖という名前は、画家としての名前であり、伊藤汝鈞という。
- ③ 相国寺の僧大典との出会いが若沖の人生を変えた。
- ④ 青物問屋ということから、国宝の『果蔬涅槃図』や『菜虫譜』などに描かれる果蔬は精密に描かれ、生き生きとしている。
- ⑤ 若沖の生きた元禄時代は経済的に繁栄し、文化も栄えたため、京都の画家は個性的な作品を生み出す人が多かった。
- ⑥ 一時期狩野派に入門したが、更なる高みを求めて狩野派を離れた。土佐派からも学んだ。
- ⑦ 中国の沈南蘋しんなんびんなどの絵に惹かれ、模写していた。
- ⑧ 『動植綵絵』を相国寺に寄進するために10年以上かけて完成させた。
- ⑨ 『動植綵絵』は隠し絵の宝庫である。
- ⑩ 困窮が増してしまったため、相国寺は『動植綵絵』を宮内庁に献上した。

「学習まんが 伝説の伝記 next 伊藤若沖」を読んでわかったこと

- ① 若沖は水墨画においても自分だけの表現を生み出していた。
- ② 市場にある魚や農作物は、若沖の観察眼を養っていた。
- ③ 大典と売茶翁という理解者を得て、活動の場を広げた。
- ④ 1800年9月10日に85歳で亡くなった

私も若沖の行動力や熱意を見習って生きていきたいです。
若沖は生き物に対しての愛情が強いので美しく精密な絵が描けたのだと思います。また、隠し絵という仕掛けに気付かなかったのが次は考えながら鑑賞したいです。

2. 私が見たい若冲の作品ベスト5「伊藤若冲 作品集」、「若冲の描いた生き物たち」より

No.1 糸瓜群虫図（細見美術館）どちらの本にも掲載

細見美術館で一番見てみたい若冲の作品は、糸瓜群虫図です。なぜなら、色味がはきはきとしている中で、優しさが感じられるところが好きだからです。糸瓜の濃淡と葉の虫食いを再現しているなど、糸瓜の生き生きとした描写が好きです。

糸瓜に描かれているカマキリを私はオオカマキリだと考えていましたが、本にはチョウセンカマキリと書かれていました。

京都で細見美術館に行って実際に見たいと思いました。

No.2 鶏頭蠨螂図（個人蔵）どちらの本にも掲載

この作品は、鶏頭という花の上に蠨螂を描いたものです。蠨螂はカマを横に広げていて、鶏頭の頂上でポーズをとって自分の体を見せつけているように見えました。

見たかったけれど、個人蔵だったため、若冲の特別展が開かれるまで情報収集を行っていきたいと思います。

No.3 果蔬涅槃図（京都国立博物館蔵）「若冲の描いた生き物たち」に掲載

釈迦臨終の情景を果物や野菜で翻案した、一種の変わり涅槃図です。釈迦の代わりに二股大根が野菜籠に横たわっており、それを悲しみ、集まっている鳥獣までもが瓜や南瓜、茸、茄子などの果蔬で表されている作品です。

この本には、「京都の食品街に青物問屋の子として生まれた若冲による大真面目な作画であって、決してふざけているわけではない。」と書かれていました。私には、涅槃図を果蔬で表現するという発想がなかったため、ユニークな作品だなと思いました。

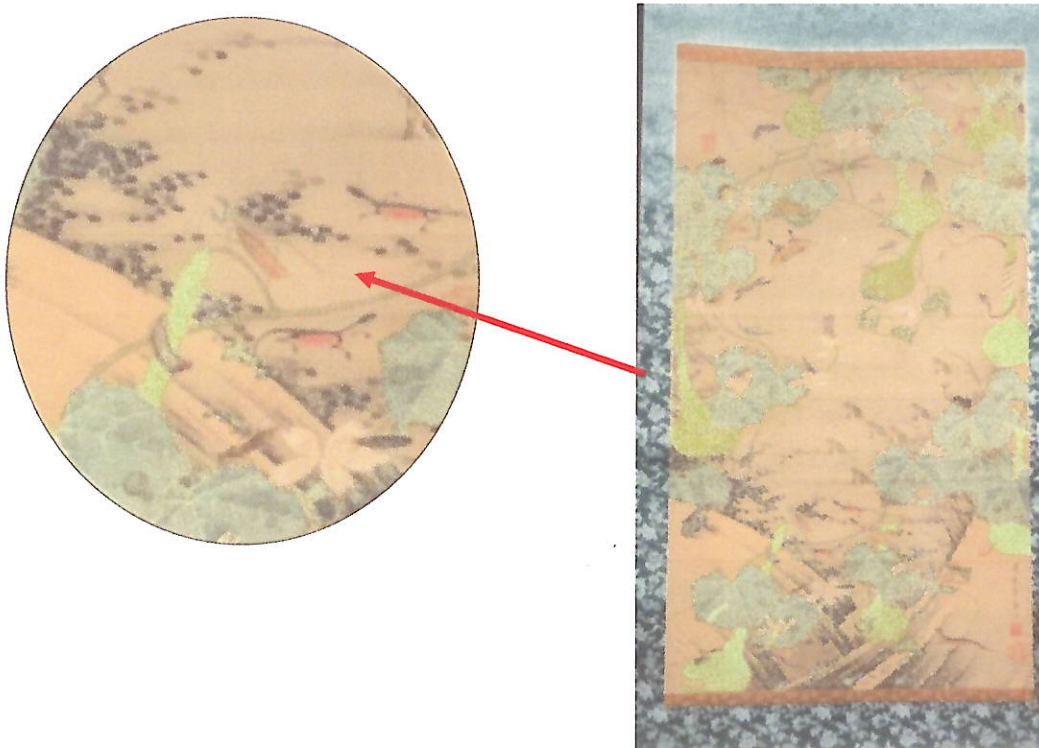
京都国立博物館に所蔵されているとのことだったので、電話で問い合わせしてみたところ、「現在は展示をしておらず、特別展があれば2月ごろに見られる」とのことでした。

No.4 葉蟲譜(佐野市立吉澤記念美術館)「伊藤若冲 作品集」に掲載

この本によると、この作品は「昭和二年の恩賜京都博物館での『若冲画選』展に展示されて図録に掲載後、長く行方不明となっていたが、平成十二年、京都国立博物館での没後二百年を記念する「若冲」展でその姿を再び現した画卷」だそうです。

色使いや画卷であることなど、今まで見ていた若冲の作品とは違った雰囲気がある作品だと思いました。いつもの作品よりも、色が落ち着いていて優しい感じがしました。私は、色味が優しいから、位の高い人の家にありそうだと考えましたが、母は、動植綵絵と違って色味が落ち着いているから、お寺などにありそうだねと話していました。ですがもう一度本を読んでみると、「表具の形式が中国風の文人好みの仕立てになっていることを考えれば、本図は文人趣味の意向を反映して制作されたものであろう。」と書かれており、なるほど、と思いました。

動植綵絵は、釈迦三尊像を荘厳するために描かれたものだと知り、目的が違うので雰囲気が違うのではないかと考えました。



昨年度、三の丸尚蔵館で見た「池辺群虫図」

3. 「虫を食べる文化誌」梅谷 献二(2004)から得た3つの学び

1. 様々な国のカマキリのオブジェが！ カマキリをモチーフにしたのは日本だけではなかったことが判明！

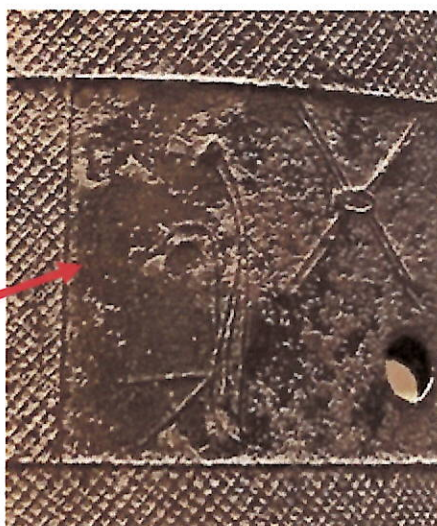
- ・日本の島根の竹細工のカマキリ
- ・中国（清）の玉製のカマキリ
- ・中国の石彫のカマキリ
- ・タイのチェンマイの木製のガラス装飾のカマキリ
- ・タイのバンコクの木製のカマキリ
- ・台湾の餅製のカマキリ
- ・フィリピンのミンダナオ島の鋳物のカマキリ
- ・バリ島の木製のカマキリ立像
- ・ケニアのバナナの幹皮製のカマキリ
- ・ジンバブエの銅細工のカマキリ

カマキリがモチーフになっている工芸品が日本、中国、東南アジア一帯からアフリカまで広くみられ、そのことを筆者は仮に「カマキリ文化圏」と呼んでいるそうです。それらについて興味深いと感じ、来年の調べる学習コンクールのテーマの一つとしたいと思います。

国によって色々な素材や形でカマキリを表現していて、その国特有の表現があるから面白いなと思いました。また、特にケニアのバナナの幹皮製のカマキリが心に残りました。バナナで作るという発想がないからすごいと思ったし、いつか作ってみたいなと思いました。

2. カマキリが登場する最初の物は弥生時代？！

昨年の私の調査で最も古い作品は、こちらの銅鐸でした。本当に日本最古なのかを確かめようと今年の課題の一つにし、研究をし始めたとき、この本にたどり着きました。ここで筆者は、「日本で工芸品にカマキリが登場したのは古く、弥生時代の祭具として有名な銅鐸に描かれたのが最初である。」と述べていたのです。「兵庫県桜ヶ丘出土5号銅鐸」も国宝に指定されているそうです。神戸市立博物館のホームページで画像を見ると、蟻螂と蛙と蜘蛛のようなものが描かれていました。いつか神戸の銅鐸も見に行ってみたいです。



蟻螂と蜘蛛が同じ区画に彫られています。

昨年度見つけた国宝の扁平鈕式銅鐸

(弥生時代中期・香川県出土・東京国立博物館蔵)

最初に蟻螂がモチーフになったのは本当に弥生時代なのか？

縄文時代といえば縄文土器なので、ネットで「蟻螂 縄文土器」などと検索してみましたが、そのようなものは見つかりませんでした。そこで「蟻螂 土偶」と検索してみたところ、長野県にある茅野市尖石縄文考古館のホームページで、「**仮面の女神**」という土偶を発見しました。顔に逆三角形のカマキリの頭のような形をした仮面をつけている国宝の土偶でした。しかし、カマキリという記載はなく、カマキリをモチーフにしたかは断定できません。文化遺産オンラインで検索すると、「縄文時代後期前半に盛行するハート形土偶の流れを引く土偶である」と説明があるものの、やはりカマキリという言葉はありませんでした。

「ときめく縄文土器」で仮面の女神について調べる

仮面の女神はカマキリがモチーフなのかを突き止めるべく、北国書館で縄文土器の本を探してみると、『ときめく縄文土器』という本を見つけました。

仮面の女神についてのページはありましたが、ここにもカマキリというキーワードは出てきませんでした。

「楽しく学べる歴史図鑑 土偶」で更に調べる

お墓と思われる穴から出土した副葬品であり、出土時は右足が外れていましたが、これは意図的に取り外されたことがわかっているそうです。

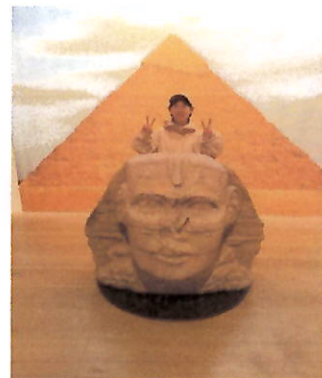
したがって、筆者の言う通り、弥生時代の銅鐸が日本最古の蠍モチーフといえるのではないのでしょうか。引き続き、土偶についての情報収集に励みたいです。

3. カマキリが最高神！？

「アフリカはアニミズムの世界で、多くの自然物には靈魂が宿り、複雑に錯綜した人種のそれぞれに無数の神話や民話があり、その中で昆虫としてはカマキリがスター格の存在になっている」「ナミビアに住むコイ族ではカマキリが最高神」「人に止まるとその人は神聖になると信じられている」「カマキリ信仰の痕跡はアフリカ大陸全土にわたって認めることができる」といった記述がありました。

私は蠍が古代エジプトにも人間と関わりがあったのかを知るべく、今年の春に六本木の森美術館で開かれた「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」に行ってきました。古代エジプトは多神教で 1500 柱の神々がいることがわかりました。昆虫はスカラベと呼ばれるフンコロガシの神のみ紹介されていました。蠍の神に関する資料は見つけられなかったので、蠍が最高神という情報に胸が高鳴りました。アフリカの宗教については、来年度以降、自分の目で確かめたいと思います。

「ブルックリン博物館所蔵
特別展 古代エジプト」にて →



4. 「大江戸 虫図鑑」西田 知己(2023)から得た7つの学び

1. 涅槃図に螻蛄が？

釈迦の寝姿を彫った像を涅槃像といい、涅槃像を描いたものを涅槃図といいます。涅槃図は、釈迦の死を悲しみ、見守るたくさんの人々と動物たちが描かれ、大判の絵にはしばしば虫も添えられており、その中には蝶や蜻蛉だけでなく螻蛄も登場しているそうです。「小さい動物でさえ信心があるのだから、大切にしなければならない。そういう受け止め方が殺生という考え方の出発点になった」そうです。

実物を見るために「涅槃図 螻蛄」と検索してみたところ、涅槃図は2月しか公開されていないとわかりました。しかし、京都の高台寺にある利生堂にて涅槃図を再現したものがいつでも見られるとわかり、8月に行くことにしました。

涅槃図があること、さらにその中にも螻蛄を含む虫たちが描かれていることも初めて知り、特別な虫が集められているのか、調べてみたくなりました。また、昨年度に螻蛄は「拝み虫」とも呼ばれていると学んだので、釈迦の死の場面に描かれているのではないかと考えました。

2. 「諸虫太平記」で螻蛄はヒーローだった！？

鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱を描いた『太平記』から派生した作品の一つに仮名草子の『諸虫太平記』があるとわかりました。1670年代に書かれた物語で、擬人化された虫たちが合戦を繰り広げます。

あらすじは以下の通りです。「蜘蛛の悪太郎に息子の命を奪われた蟬が蜻蛉と手を結んで螻蛄などに援軍を求め、蜘蛛ヶ巣城まで討伐に向かいます。城攻めの最中、手柄を立てようと焦ったヤンマの抜け駆けによって苦戦を強いられますが、蜂や螻蛄らが奮戦して盛り返します。追い詰められた蜘蛛軍はついに降参し、万歳を唱えた虫たちは、元の居場所に帰っていきます。」

私は、螻蛄が正義として描かれ、活躍するという描写から、日本人にとって螻蛄は頼もしいものだったのではと考えました。

『諸虫太平記』を所蔵している東京大学のデジタルアーカイブポータルで閲覧してみたところ、自力では読むことができませんでした。蜘蛛に捕らえられた仲間を助ける場面の挿絵があり、螻蛄が一人で立ち向かう姿が勇ましかったです。どの登場人物も昆虫の兜を被り戦っていましたが、螻蛄は手に鎌を持っているのが面白かったです。

3. 蟻螂が武士の治療薬だった!?

昨年度の研究では、蟻螂の卵のうを中国では頻尿、夜尿症など、日本では小児のよだれ止めとして用いていたことがわかりました。

この本では蟻螂が武士の治療薬に使われていたことがわかりました。10代将軍の徳川家治の要請によって将軍家の奥医師である多紀元徳が1789年にまとめた『広恵濟急方』の中に棘が刺さった場合の抜き方の箇所にかまきりが使われています。

- ① かまきりの頭をすりつぶす。
- ② 糊と混ぜ合わせる。
- ③ 銅銭ほどのサイズの紙に塗り付ける。
- ④ 患部に貼っておく。
- ⑤ これを1, 2回試みると、棘は自然に抜ける。

アフリカでは、最高神と崇められていた蟻螂が、日本ではこのような扱いをされていたことに驚き、胸が締め付けられました。悲しいけれど、奥医師は将軍の体を治すのが仕事なので、仕方がないことだなと思いました。

4. 蟻螂の兜が見たい!

昨年度、蟻螂があしらわれた兜があると教わったが、結局目にすることはできませんでした。

1684年に湯浅得之によって書かれた『武具訓蒙図彙』では、鎧や兜などを一体一体図入りで解説しているそうです。挿絵を見ると、丸みを帯びた蟻螂が兜に乗り、鎌を構えているようなデザインとなっています。口から触角が出ているように見え、可愛らしい顔つきをしています。

5. 蟻螂の漢字の覚え方

平安時代前期の公卿で、歌人でもあった小野篁の名を冠した教科書『小野篁歌字尽』には五・七・五・七・七の形式に整えられた暗唱用の和歌だったそうです。その中で、挿絵や解説が充実しているもの(1845年)では、虫偏の漢字は2行目から始まっていき、中にある蟻螂の覚え方は、

かまきり(蟻螂)、ケラ(蛄・虻)、アブ(虻)、カ(蚊)で、読み方は「當(当)郎は かまきりと読む 古しけら 亡ぶはあぶよ 文は蚊と知れ」となるようです。

6. 螻蛄は寺子屋の教科書にも登場していた？

寺子屋教育の教材でもあった往来物の一ジャンルに商売往来があり、文字だけで構成された素朴な冊子から、図版やレイアウトも凝った本格派まで多種多様だったと書いてあります。虫偏で書かれる生き物の項目の中で、最後に螻蛄が書かれており、「怒ると『臂（肘・ヒジ）』を立てる」とあります。ヒジという人間的な表現が面白いなと思いました。挿絵の 螻蛄にはカマがなく、顔も実際と違う感じになっています。絵師が特定の虫に詳しくないと、稀にこのようなミスが起こるそうです。

7. 北尾正美が描く螻蛄の魅力

1795年の『鳥獣略画式』で北尾正美が描いた螻蛄は、丸みを帯びた描き方が可愛いです。葛飾北斎と同時期に活躍していましたが、精密に描いた葛飾北斎の螻蛄とは違った魅力があふれています。

5. 昆虫食にカマキリ?! 「食べられる虫ハンドブック」より

「食べられる虫ハンドブック」 内山照一

筆者は、「昆虫食を試してみたいと考える多くのみなさんの手引きとして大いに活用されることを願っています。」と語っています。

本書では、オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリの食べ方について書かれていました。オオカマキリは蒸す、揚げる、茹でるという調理法があるそうです。メスの腹の中にある卵は淡白な鶏卵の黄身のような味わいであり、孵化した1齢幼虫はさっと油通しをしてふりかけにするという。

コカマキリは揚げます。「肉食のため数日絶食させると安心」と書かれており、心が痛みました。また、採取してすぐ食べる場合は、内臓を取り除くそうです。未消化物が残っていると苦くて不味いらしいです。

ハラビロカマキリも揚げるそうで、内臓を取り除く際に、「カマキリの寄生虫であるハリガネムシに気を付ける」とあります。

カマキリが食用となっていることにおどろきました。私はカマキリが苦しめられるのを想像するのが辛いため、知識としてとどめておきたいと思います。

第3章 いざ京都へ！

2025年8月2日から2泊3日で京都に蠅螂歴史探訪に出かけました。

石清水八幡宮の蠅螂彫刻

高台寺の利生堂の涅槃図の蠅螂

祇園祭ぎゃらりい

細見美術館で伊藤若冲と「祇園祭礼図屏風」

京都市歴史資料館の特別展「祇園祭いま・むかし」



たくさんの蠅螂に出会えますように！

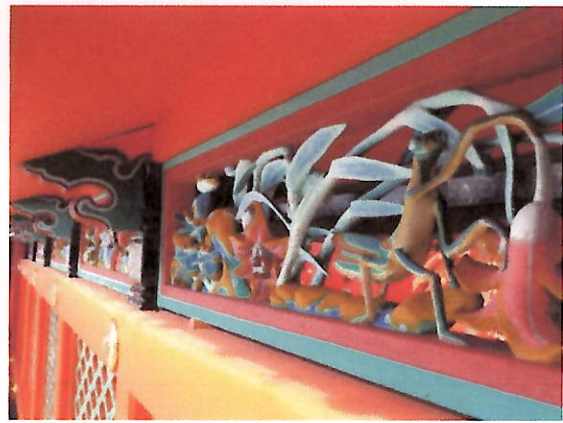
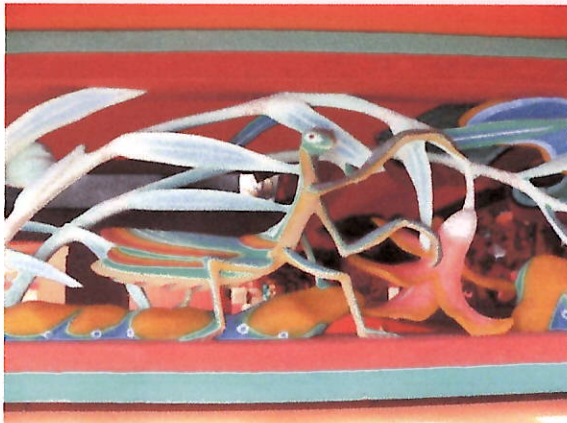
蠨螂の彫刻に会いに行こう！－石清水八幡宮－

昨年度参拝した上野東照宮と同じく、石清水八幡宮にも国宝の蠨螂の彫刻があると知り、今年度は石清水八幡宮に絶対に行きたいと思いました。母に蠨螂の彫刻をいつでも見られるのかメールで問い合わせてもらったところ、決まった時刻までに申し込めば、蠨螂の彫刻がある昇殿参拝が可能との返事をいただきました。



←ケーブルに乗って山を上り下りしました。その際に「徒然草」の「仁和寺にある法師」を思い出しました。

お祓いを済ませて、宮司さんに案内していただきました。ついに彫刻とご対面！



↑石清水八幡宮の方に送っていただいた貴重な写真

色が一色だけでなく、オレンジやクリーム色など複数の色が使われていて、単色の上野東照宮の蠨螂とは違った良さがあります。鮮やかな色遣いでカマが尖っていて、翅に筋が入っているなど、全体的に形がはっきりしていると思いました。一方で、目は白目と黒目があり、顎がなく、笑っているような口をしていて、可愛い顔でした。

宮司さんに教えていただいたこと

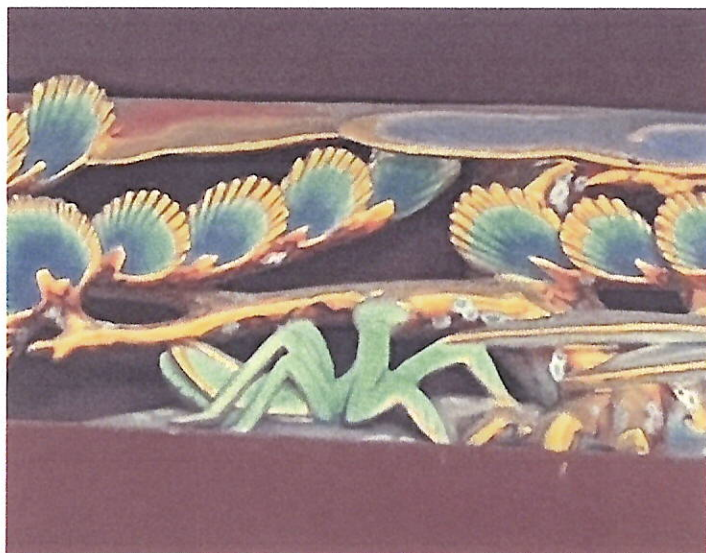
- ① 百合と蟻螂の組み合わせが珍しい。
- ② 391年前の左甚五郎の作であること。
- ③ なぜ石清水八幡宮に蟻螂の彫刻が彫られたのか。
 - ・平安時代に創建され、武運長久の神として武士に尊崇されてきた神社なので、武士に愛された昆虫のため。
 - ・南北朝時代の公家四條隆資^{しじょうたかすけ}の戦いぶりが中国の故事にある「蟻螂の斧」のようだったことから。2つの説が有力であること。
- ④ 祇園祭の山鉾の一つの「蟻螂山」はこの彫刻を参考に作られたと言われていること。



研究している旨を伝えると、特別に撮影とレポートに画像の使用許可をいただきました。

「百合と蟻螂」という組み合わせは、これまで一度も見たことがありませんでした。宮司さんに上野東照宮にも蟻螂の彫刻があることを伝えてみると、「初めて知った。」と驚かれていました。まだ知られていないだけで、国内にまだ蟻螂の彫刻が隠れている可能性があるのかもしれませんが。調査をしていきたいと思います。

上野東照宮と比較する



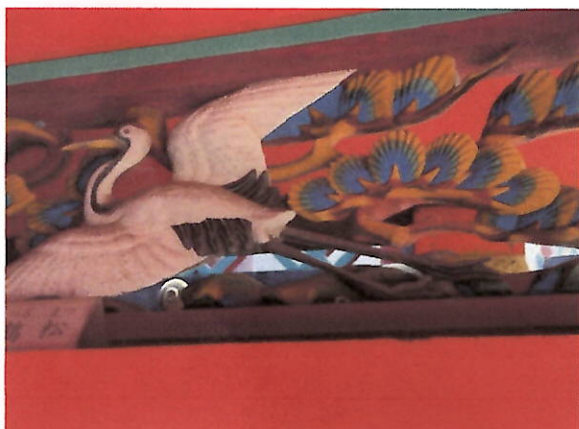
【上野東照宮の蟻螂】

- ・使用されているのは2色
- ・全体的に丸みを帯びている。
- ・蟻螂に松の組み合わせで縁起が良いように感じる。



【石清水八幡宮の蟻螂】

- ・2色以上使用されている。
- ・形がすっきりしていて本物に近
躍動感がある。
- ・蟻螂に百合の組み合わせが華や



←私は石清水八幡宮の蟻螂が本物に近いデザインをしているので気に入っています。

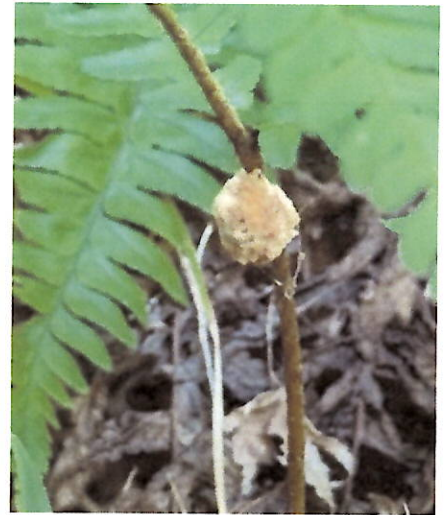
宮司さんは、上野東照宮の石清水八幡宮の松のデザインが似ていることから、上野東照宮も左甚五郎またはその一派の作かもしれないとおっしゃっていました。見比べてみると確かに同じようでした。

←石清水八幡宮の「鶴 松」

石清水八幡宮参拝後に出会ったカマキリたち

宮司さんが本殿内でよくカマキリを見ると教えてくださったので、家族で蟻螂を探しながら帰りました。行きは見つけれませんでしたでしたが、帰りは2匹のオオカマキリの幼虫と抜け殻、卵囊を見つけることができました。

京都はたいへん暑かったですが、この森の中は涼しく、蟻螂にとっても過ごしやすいのかなと思います。



涅槃図の蠃螂に会いに行こう！－高台寺の利生堂－



650年前に描かれた涅槃図が再現された絵画がある利生堂に行きました。

原画は高台寺にあり、2月の1ヶ月間のみ公開されているそうです。しかし、2月に来訪することはできないので、蠃螂が描かれているか、利生堂に行って確かめてみることにしました。

入ってみると、教室の1.5倍ほど広いホールで、天井も高かったです。

正面には横になっているお釈迦さま、その周りには仏教を守護する神様やゾウ、ライオン、トラ、ヒョウ、ウシ、シカ、鳥類、ヘビ、カエル、カメ、ムカデ、カマキリ、チヨウなどの生き物が描かれていました。



カマキリが見当たらず探し回ったところ、なんと左端の機械の影に隠れていました。



涅槃図の螻蛄を見て

飛んでいる蝶の下に、カマを上にあげている螻蛄が描かれていました。螻蛄は「拝み虫」とも言われているため、カマを胸の前でたたんでいるのかと思っていたけれど、見た涅槃図の螻蛄は、カマを両方とも上にあげていたので、私は拝んでいるようには見えませんでした。

その理由を母と話し合ってみました。私は、「蝶を狙っているのかも。」と考えましたが、母は、「お釈迦さまの死を悲しんで集まっているのだから、捕食はしないのでは。」と話していました。確かにお釈迦さまが横になっているのに、生き物を食べるようなことはしないか、と納得しました。

涅槃図に描かれるということは、螻蛄が室町時代の人々にとって身近な生き物だったことが考えられます。しかし、螻蛄が隠れるような位置に機械が設置されていることから、利生堂を建てた人たちにとってこの螻蛄はあまり大きな存在ではないのかもしれない。

祇園祭礼図屏風&糸瓜群虫図を見に行こう！－細見美術館－

ついに、江戸時代前期に描かれた六曲一双の『祇園祭礼図屏風』を見ることができましたが、写真を撮ることはできませんでした。螻蛄山は大きな山鉾だと思っていましたが、実際は、前に進む山鉾の四分の一ほどの大きさしかありませんでした。小さいながらも螻蛄が勇ましく描かれていました。実際の螻蛄山も他の山鉾より小さいのかなと思います、より実際の祇園祭を見てみたくなりました。



↑お土産で買ってもらった絵葉書を撮影

『祇園祭礼図屏風』作者不明 江戸前期の一部

**1年間探した祇園祭礼図屏風。
本当に動いているようで、素敵でした。**

残念ながら伊藤若冲の『糸瓜群虫図』は展示されていませんでした。

江戸時代前期に住吉如慶が描いた「きりぎりす絵巻」が展示されており、螻蛄も描かれていると説明が書かれていましたが、どれだかわかりませんでした。学芸員さんもおらず、質問できなかつたのが心残りです。

後日、六本木のサントリー美術館で「虫めぐる日本の人々」展の図録を買ってもらい、最初のページに「きりぎりす絵巻」を見つけました。じっくり見てみましたが、やはり螻蛄と思われるものが見当たらず、残念でした。「きりぎりす絵巻」とインターネット

で検索すると、細見美術館の YouTube が出てきて、あらすじを読むことができました。虫たちのあこがれである玉虫姫に仕える蟋蟀の局の手引きにより、蟬の右衛門守が姫の心を射止め、婚礼の運びとなります。そこで、蠨螂の手長の助言によって、婚礼の日取りは十五夜となります。蠨螂は主役でないものの、恋敵でもなかったので安心しました。婚礼の日取りを決めるような大役を任されていることがわかり、嬉しく思いました。



↑同じくお土産で買ってもらった絵葉書を撮影

『きりぎりす絵巻』(下巻・部分) 住吉如慶 江戸前期

『きりぎりす絵巻』や「住吉如慶」と市内図書館の蔵書を検索しましたが、見つけることはできませんでした。現代語訳したものを読んでみたいです。

蠶螂山の手がかりを得よう！－祇園祭ぎゃらりい－



蠶螂山の手がかりを得るために「祇園祭ぎゃらりい」に行きました。

石清水八幡宮の宮司さんに祇園祭が終わった今、山鉾を見ることはできないと聞いていたのでここで実物大の山鉾や動画を見られて祇園祭を見に行ったような気持ちになりました。



こんなに大きいとは思っていなかったのでその迫力に圧倒されました。祇園祭を実際に見てみたいという気持ちがさらに高まりました。

祇園祭の歴史に触れよう！－京都市歴史資料館－



特別展「祇園祭いまむかし」が行われている京都市歴史資料館に行きました。入口にあったテレビで祇園祭の順番決めの様子やお祭りの様子などを見ることができました。

館内には、『祇園会山鉾見物独案内図』や『祇園社大政所絵図』、『祇園会山鉾之次第』、『祇園祭礼図屏風』など、祇園祭に関する資料であふれていました。（撮影不可）

ここで見た『祇園祭礼図屏風』は、作者不明で18世紀から19世紀頃の制作と考えられています。江戸時代前期に描かれた細見美術館の『祇園祭礼図屏風』より新しいはずですが、年季が入っているように見えました。細見美術館と同じく蟻螂山は小さく描かれており、人間の頭と同じくらいでした。

特別展の資料と蟻螂山保存会の蟻螂山の冊子からわかったこと

① 蟻螂山の歴史

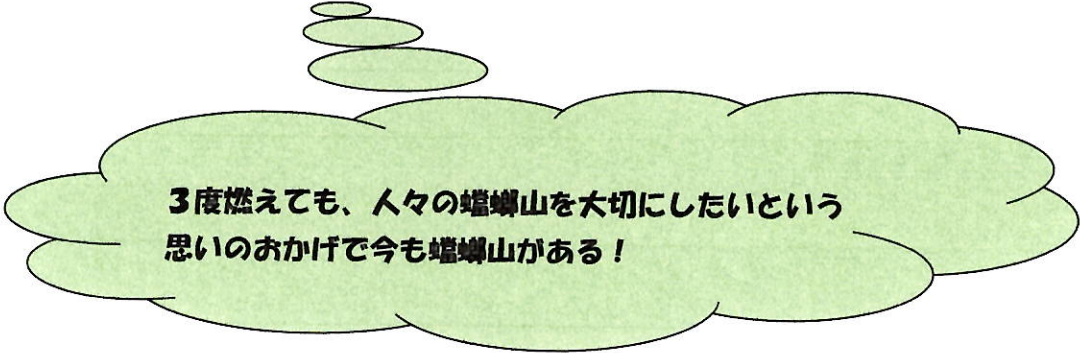
- 1352年 四條隆資、足利義詮軍男山で戦い戦死
- 1376年 渡来人陳外郎ちんういろうたいおんそうき大年宗寄により、四條家の御所車に大蟻螂の模型を乗せて祇園祭巡行に初参加
- 1468年 応仁の乱により蟻螂山焼失
- 1500年 山鉾巡行復活
- 1788年 天明の大火により蟻螂山焼失
- 1802年 御所車新調（現存）
- 1864年 禁門の変により蟻螂山一部焼失
- 1876年 御所車を座敷飾りに作り変え、居祭りに参加
- 1978年 蟻螂山保存会設立



1979年 御所車修復

絡繰り蟻螂を新調

1981年 蟻螂山再興・山鉾巡行復帰



**3度燃えても、人々の蟻螂山を大切にしたいという
思いのおかげで今も蟻螂山がある！**

② 人間国宝が手掛ける手描き友禅

蟻螂山を装飾する華やかな懸装品は全て人間国宝の羽田登喜男氏が手描き友禅で制作

献納したものだそうです。「日光堅牢度、摩擦堅牢度を研究し制作されている」「20数年かけて完納」ということがわかり、3度の焼失を経て、大切な蟻螂山を守っていききたいという思いが込められているのだとわかりました。

資料を見て、改めて祇園祭は歴史ある祭りだと思いました。蟻螂山保存会の資料の使用許可を取るために母にメールで問い合わせてもらったところ、温かいお言葉をいただきました。この研究を深めて蟻螂山保存会の方の思いに応えられるように励んでいきたいです。

室町から桃山時代に狩野永徳が描いた国宝の『上杉本 洛中洛外図屏風』にも蟻螂山が見られることを初めて知りました。山形県米沢市の上杉博物館所蔵なので来年行けるようお願いしようと思います。

第4章 関東地方で歴史探訪！

東京都 出光美術館

東京都 根津美術館

東京都 サントリー美術館

千葉県野田市 松光山清泰寺



↑ 出光美術館



↑ 松光山清泰寺

祇園祭礼図屏風の蠅螂を見に行こう！－出光美術館－

2024年9月22日に出光美術館の『物、ものを呼ぶ 一伴大納言絵から若冲へ』という展示を観に行きました。

作品リストを見ると、桃山時代の祇園祭礼図屏風があり、期待して行ってみました。しかし、蠅螂山は描かれていませんでした。

伊藤若冲の『鳥獣花木図屏風』『群鶴図』にも蠅螂は描かれていませんでした。

江戸時代に酒井抱一が描いた『十二ヵ月花鳥図貼付屏風のうち七月』には蠅螂が描かれていました。撮影不可だったため、作品をよく観察し、右の絵葉書を買ってもらいました。酒井抱一は、淡い色遣いから優しい感じがします。若冲以外の昆虫を描いていた人物を知れて、もっと深めてみようと思いました。



祇園祭礼図屏風の蠅螂を見に行こう！－根津美術館－

2025年7月21日に根津美術館『唐絵』展に行きました。作品リストに『芙蓉蠅螂蝗図』があったからです。全て撮影不可でした。

重要文化財である明時代（15世紀）の呂敬甫が描いた『瓜虫図』は瓜の葉の上から褐色の蠅螂が顔をのぞかせていました。今まで見てきた作品は緑色の蠅螂が多かったので、中国では褐色の蠅螂が多く描かれているのか気になりました。

この作品がいつ日本に渡ってきたかはわかりませんが、若冲もこの作品を模写していたのかもしれない。



←買ってもらった絵葉書の『瓜虫図』

刺繍釈迦涅槃図の蟻螂を見に行こう！－松光山清泰寺－

野田市にも涅槃図があるの？

高台寺の利生堂の涅槃図を見た後、自分が住んでいる野田市にも、涅槃図があるのか気になり、調べてみると、8月12日に更新された野田市のホームページを見つけました。そこにはなんと、東金野井にある清泰寺の『刺繍釈迦涅槃図』という涅槃図の写真と説明がありました。しかし、見られるのは4月のどこかの一日のみと書かれてあり、写真では蟻螂がいるかわかりませんでした。そこで、野田市役所の生涯学習課に電話を試してみました。すぐにはわからないとのことだったので、折り返し電話をしていただきました。すると、蟻螂がいることがわかり、写真を見せていただけることになりました。

わくわくしながら市役所の生涯学習課に赴いて、『刺繍釈迦涅槃図』の画像を見せていただきました。涅槃図の右下に描かれていました。他の動物と比べると、大きく描かれているように思えました。

利生堂の蟻螂と比べると、大きく存在感があり、褐色で、両方のカマが揃い、拝んでいるように見えました。涅槃図の写真で蟻螂に出会うことができ感動しました。清泰寺の電話番号を教えていただき、後日涅槃図について教えていただくことになりました。

こちらの『刺繍釈迦涅槃図』は、平成2年野田市指定文化財、平成21年に千葉県指定有形文化財となっています。

↓刺繍釈迦涅槃図（一部）



優しい住職さんたちに涅槃図について時間をかけてくわしく教えていただきました。縫薄屋佐兵衛が寛文5年(1665年)に制作し、第25世弘栄が購入したものだそうです。



100年に1度は修理をしているとのこと。大きさは畳2畳分ほどもあり、文化財に指定され、湿度・温度を管理し、大切に保管しているそうです。涅槃図の中では、色がよく残っている方であり、江戸時代前期の質の良い布と糸を使用しているからだそうです。ただし、茶色の糸は鉄が含まれているため、黒く変色していました。清泰寺を訪れた現代の刺繍家さんは、「牛の角一本を縫うのに一晩かかる。」と話されていたそうです。

お釈迦さまの下には徳川家康、秀忠、家光の戒名が刺繍されていました。上野東照宮、石清水八幡宮に続いてここでも徳川家が出てきたので、**蟻螂と徳川家に関係があるのか**という疑問がわいてきました。住職さんに質問してみましたが、清泰寺と徳川家、蟻螂につながりはないとのことでした。

生涯学習課で見せていただいた写真では、褐色の蟻螂に見ましたが、より鮮明な写真を見せていただいたところ、全体的に黄緑色をしていました。鹿と蟻螂がほぼ同じ大きさに見えましたが、刺繍で描かれているため、動物の大小に合わせているわけではないかもしれないと仰っていました。また、ほとんどの生き物がお釈迦さまの方を向いている中、蟻螂はこちらに顔を向けているようでした。不思議に思っ住職さんに質問しましたが、「横を向くとカマキリらしさが出ないかもしれませんね。」と話されていました。

市内の図書館にはない涅槃図に関する貴重な文献を貸していただきました。涅槃図に猫が描かれているかいないかを言及する資料はあるものの、蟻螂について書かれている資料は見つけることができませんでした。涅槃図の写真から蟻螂がいるかを確認していきたいと思います。

また、家に帰ってから、「蟻螂 徳川家 神社 寺」などのキーワードでインターネット検索すると、「**久能山東照宮の玉垣**」に蟻螂の彫刻があると見つけ、久能山東照宮に電話をしてみました。立ち入り禁止区域にあるとのことでしたが、参拝前に電話で相談するよう言われました。冬休みに久能山東照宮に連れて行ってもらうことになりました。そこで学んだことを来年度のレポートにまとめていきたいです。

富津市寿榮山松翁院の縫箔刺繍「釈迦涅槃図」について

住職さんに富津市にも刺繍釈迦涅槃図があると教えていただき、資料もお借りしました。この涅槃図は昭和28年6月19日に千葉県的重要文化財に指定されたそうです。

縦363.6cm、横242.4cmの画面にお釈迦さまの涅槃の様子が刺繍で描かれています。大きな涅槃図の中に蟻螂が描かれていることを知り、胸が高鳴りました。画像を見ると、カマや脚が茶色で頭・胸・腹は輝くような黄緑色でした。胸と腹が直角に描かれ、脚の位置からも馬のように見えました。

制作者は浮世絵の菱川師宣の父親である縫箔師・菱川吉左衛門道茂です。1658年吉左衛門が62歳の時の作品で3年3か月の月日を費やしたそうです。こちらの涅槃図にも徳川家康、家光、秀忠の三将軍を示す金糸の縫い取りが見られます。**蟻螂と徳川家に関係があるのか**という仮説が証明できるのかますます興味がわいてきました。

年1回2月15日に公開されるのみで、その他は見ることはできません。2026年の2月15日は日曜日なのでぜひ見に行き、住職さんに質問してみたいと思います。

蠍の描かれた涅槃図はどこに？ -お借りした資料より-

「よくわかる絵解き涅槃図」より

涅槃図の名前	時代	作者	都道府県	寺名
道益筆版画涅槃図	江戸	道益	山口県	龍昌寺

縦45cm横30cmで、象の尾の近くに蠍が描かれています。

日本の三大涅槃図

- ① 明兆筆の京都・東福寺
- ② 狩野直信筆の京都・大徳寺
- ③ 長谷川等伯筆の京都・本法寺本

蠍が描かれているか
今後も調査を続けます。

「涅槃図物語」より

涅槃図の名前	時代	作者	都道府県	寺名
木版涅槃図	江戸	道益	山口県	龍昌寺

『道益筆版画涅槃図』同様龍昌寺の所蔵ですが、こちらは縦70cm×横24cmの小形木版涅槃図です。象の鼻先に蠍が描かれています。

「知っておきたい 涅槃図絵解きガイド」より

涅槃図の名前	時代	作者	都道府県	寺名
不明・奈良型	室町末期	明兆	兵庫県	延応寺
不明	不明	不明	石川県	崇禅寺

延応寺の涅槃図は、青と緑の獅子の隣に蠍が描かれています。脚の先が曲がっていて跗節が大きく描かれています。頭が丸くて可愛いです。

崇禅寺の涅槃図は、一部しか写真の掲載がありませんでした。清泰寺の涅槃図とは違って、蠍の頭が向こう側を向いています。カマが他の脚と同じ形をしていることに驚きました。

3冊の資料を読み、たくさんの涅槃図を見て、蠍が描かれているのはこの4つだけでした。もっと多いと思っていたので意外でした。全体像が見られなかった崇禅寺以外の3つの涅槃図には徳川家康などの名前がなく、徳川家とのつながりは見つけられませんでした。

涅槃図によって蠍の形や大きさ、色など表現が違うのだなと思いました。

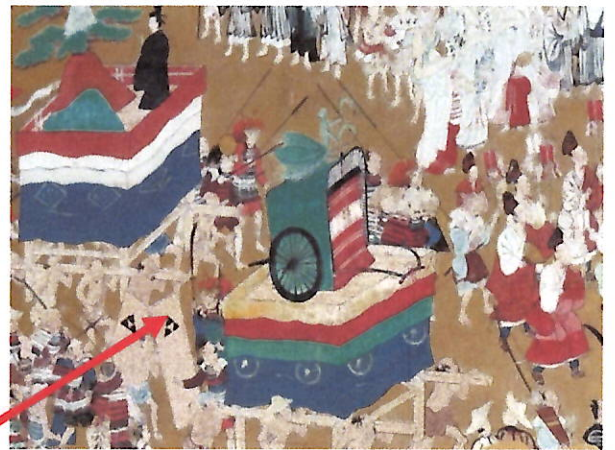
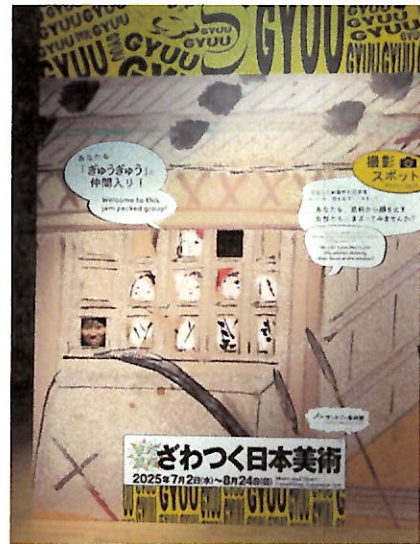
日吉山王祇園祭礼図屏風の蠅螂に会いに行こう！

—サントリー美術館—

去年、社会の教科書で写真を見つけてから、ずっと祇園祭礼図屏風を見てみたいと思い、どこに所蔵されているのか探したり、都内まで見に行ったりしてきましたが、見ることはできませんでした。そこで、教科書「新編 新しい社会6 ▶歴史編」の会社である東京書籍に電話をしてみました。すると、おそらくサントリー美術館に所蔵されている、と教えていただきました。

ついにサントリー美術館「ざわつく日本美術」展に行ってきました。

「日吉山王祇園祭礼図屏風」の顔はめパネル→





←『日吉山王祇園祭礼図屏風』(部分)

これがあの「日吉山王祇園祭礼図屏風」か！と感動しました。京都で見た祇園祭礼図屏風よりも色が濃く、室町時代に描かれたものにも関わらず、これほど色鮮やかに残っていることに驚きました。そして、たくさんの人から守られてきたことが考えられ、素敵だなと思いました。

腹や脚の節、顔の作りが本物のようで、室町時代の蜻蛉山の蜻蛉も精巧な作りだったと考えられます。

まとめ

日本人は、蠮螋に親しみをもって関わってきた。

昨年度、中国の故事の「蠮螋の斧」から武士に好まれてきたことを知りました。今年度は、石清水八幡宮や久能山東照宮にも蠮螋の彫刻があると知り、武士に好まれてきたということがさらによくわかりました。登場人物を擬人化した物語である『諸虫太平記』や『きりぎりす絵巻』に出てくる蠮螋はどちらも主役ではなかったものの、主人公の味方として描かれており、人々にとって蠮螋は親しみのもてる昆虫だったと考えられます。また、蠮螋山は、三度も焼失したにもかかわらず、人々の強い思いによって復興し、現在も祇園祭で巡行し、愛されています。そして、涅槃図にも蠮螋の姿が描かれていることから、仏教の世界でも蠮螋は親しみのある昆虫だったと考えられます。

けれども、私が見てきた作品に描かれているのはオオカマキリのみです。ハラビロカマキリやコカマキリなど特徴のある種類のカマキリが描かれている作品を見たことがありません。そこで、いくつかの可能性が考えられます。

- ① オオカマキリしか見ることができなかった？
- ② カマキリといえばオオカマキリだから？他の種類より親しみやすかった？

蠮螋と日本人の関わりをまとめた年表

黒文字は去年見つけた作品、赤文字は今年見つけた作品や事から

時代	美術品など	古典	芸能・祭り
縄文			
弥生	・扁平鈕式銅鐸		
古墳			
飛鳥			
奈良			
平安		『堤中納言物語』 『梁塵秘抄』	・蠮螋舞之頸筋
鎌倉			
南北朝			
室町	・祇園祭礼図屏風 ・高台寺の涅槃図 ・日吉山王祇園祭礼図屏風 ・奈良型の涅槃図(作者不明)		・大蠮螋を乗せた御所車が初めて祇園祭を巡行。

			・応仁の乱により 蟻螂山焼 失。
安土桃山			
江戸	<ul style="list-style-type: none"> ・池辺群虫図 ・玄圃瑤華のうち冬葵 ・北斎漫画・草筆の部 ・上野東照宮の透塀 ・青貝微塵塗虫尽鞘合口拵 ・糸瓜群虫図 ・鶏頭蟻螂図 ・果蔬涅槃図 ・菜蟲譜 ・祇園祭礼図屏風 ・きりぎりす絵巻 ・清泰寺の刺繡釈迦涅槃図 ・十二ヵ月花鳥図貼付屏風の うち七月 ・石清水八幡宮の蟻螂の彫刻 ・道益筆版画涅槃図 	『虫歌合』 『訓蒙図彙』 『諸虫太平記』 『きりぎりす絵巻』	・天明の大火に より蟻螂山 焼失。 ・禁門の変によ り蟻螂山一 部焼失。
明治	<ul style="list-style-type: none"> ・七宝向日葵蟻螂図花瓶 ・猿猴弄蟻螂図額など 		
大正			
昭和		『キンダーブック』	・御所車修復。 絡繰り蟻螂 を新調。
平成			
令和			

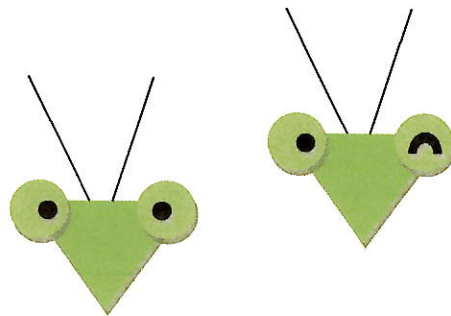
振り返り

今年は、ずっと行きたかった京都で祇園祭礼図屏風を見たり、祇園祭について知れたり、石清水八幡宮の螳螂の彫刻を見ることができたりと、夢がたくさん叶いました。新しいことも知れて、いい学習になりました。特に、涅槃図というものを初めて知り、そこに螳螂がいることがわかり、とても興味が湧きました。作者や制作年、どこに所蔵されているか、螳螂はいるか、螳螂はどのような色、形なのかなど、深めれば深めるほど、新たに興味が湧いてきました。疑問の答えを探していくのが楽しかったです。

『枕草子』では、猫は「命婦のおとど」、犬は「翁まる」と天皇や中宮に名前を付けて飼われるなど愛されていました。蛍や鈴虫、はたおり（キリギリス）、蝶などは美しいとされていましたが、螳螂の話題や、犬や猫のように飼われてきたなどの記述は見当たりませんでした。したがって、清少納言が暮らした宮中では螳螂となじみがなかったと思われる。それを確かめるために来年度以降、調べていきます。

また、来年度は山形県にある上杉博物館所蔵の『上杉本 洛中洛外図屏風』や栃木県にある佐野市立吉澤記念美術館の『菜蟲譜』、静岡県久能山東照宮の螳螂の彫刻を見て、今年学んだことから深めていきたいです。涅槃図についても、螳螂がいる涅槃図をもっと探してみたいと思います。

そして、お盆の忙しい中、協力してくださった清泰寺の住職さんたち、石清水八幡宮の宮司さん、市役所の生涯学習課の方、本当にありがとうございました。母と父も、私の研究のためにたくさんのことをしてくれて、妹は、私の研究に付き合ってくれて、家族には本当に感謝しています。研究をすることでお礼ができたと思います。



来年度の探訪計画

日本人は、蠶繭とどのように関わってきたのだろうか。

課題①

佐野市立吉澤記念美術館で「葉蟲譜」を見る

〔後半部分展示〕いきもの

12月9日（火曜日）～12月14日（日曜日）

課題②

久能山東照宮の蠶繭の彫刻を見る

冬休み中

課題③

清泰寺で「刺繡釈迦涅槃図」を直接見る

4月5日

課題④

ハラビロカマキリやコカマキリなども日本人と関わってきたのかを本で調べる

課題⑤

蠶繭は日本人にいつから飼われていたのかを調べる

課題⑥

作品年表に作品や事柄が書かれていない時代を埋める

課題⑦

千葉市美術館で喜多川歌麿の「画本虫撰」を見る

参考・引用文献リスト

(本を参考にした場合)

作品名: もつと蠅螂歴史探訪

あなたの名前: 小嶋 菜緒

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	図書館名
1	梅谷 献二	虫を食べる文化誌	創森社	2004年	18-72-80	野田市立興風図書館
2	西田 知己	大江戸 虫図鑑	東京堂出版	2023年	1 52-53 70-71 138-139 180-181 188-189 192-193 210-211	野田市立興風図書館
3	小西 正泰	虫の博物誌	朝日新聞社	1993年	56-61 142-150 175-176	野田市立興風図書館
4	菊池 庸介	歌麿『画本虫撰』『百千鳥狂歌歌合』 『潮干のつと』	講談社	2018年		野田市立興風図書館
5	河江 肖剰	神秘のミステリー！文明の謎に迫る 古代エジプトの教科書	ナツメ社	2023年	63-68	自宅
6	太田 彩	伊藤若冲 作品集	東京美術	2015年	98-99 100-101 102-105	野田市立北図書館
7	譽田 亜紀子	ときめく縄文図鑑	山と溪谷社	2016年	24-25	野田市立北図書館
8	小林忠 小宮輝之 湯浅浩史 佐々木猛智 木村浩之 秋篠宮文仁	若冲の描いた生き物たち	学研プラス	2016年	100-101 102-103 120-123 136-139	野田市立北図書館
9	山田康弘	楽しく学べる歴史図鑑 土偶	studio tac creative	2024年	88	野田市立北図書館
10	譚 小勇	まんが 中国名言故事	潮出版社	2017年	170-172	野田市立興風図書館
11	下津谷 達男	市内ガイドブック 野田紀行	野田市	1994年	52 122	野田市立興風図書館
12	辻 惟雄	よみがえる天才1 伊藤若冲	筑摩書房	2020年	21 24 34-36 54 72-73	野田市立せきやど図書館
13	岡田 秀之	学習まんが 世界の伝記next 伊藤若冲	集英社	2023年	6, 14, 88, 119	野田市立せきやど図書館
14	山下 裕二	伝統の美がひかる！ 江戸時代の天才絵師 伊藤若冲	ほるぷ社	2022年	全て	野田市立興風図書館
15	内山 照一	食べられる虫ハンドブック	自由国民社	2013年	2 68-69	野田市立興風図書館

参考・引用文献リスト

(本を参考にした場合)

作品名: もっと蠶螂歴史探訪

あなたの名前: 小嶋 菜緒

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	図書館名
16	狩野 博幸	pen books 若冲 その尽きせぬ魅力。	cccメディアハウス	2016年	72-75	野田市立興風図書館
17	古田 亮	見かたがわかればもっと面白い！ 日本絵画の教科書	ナツメ社	2023年	59 146-147	野田市立興風図書館
18	澤井 陽介	新編 新しい社会 6 歴史編	東京書籍	2024年	63	自宅
19	渡部 宏	カマキリブラザーズ ビジュアルブック	オーム社	2024年	全て	自宅
20	サントリー美術館	虫めづる日本の人々	サントリー美術館	2023年	全て	自宅
21	京都市歴史資料館	令和7年度 特別展 祇園祭 いま・むかし	京都市歴史資料館	2025年	全て	自宅
22	土屋 貴裕	もっと知りたい 国宝	東京美術	2025年	5	野田市立北図書館
23	竹林 史博	よくわかる絵解き涅槃図	青山社	2008年	12, 26 102	清泰寺
24	竹林 史博	涅槃図物語	大法輪閣	2011年	145	清泰寺
25	竹林 史博	知っておきたい 涅槃図絵解きガイド	青山社	2013年	16, 70	清泰寺
26	一般財団法人 蠶螂山保存会	祇園祭 蠶螂山	一般財団法人蠶螂山保存会	2025年	1-18	自宅
27	狩野 博幸	知られざる日本に眠る若冲	蠶螂山保存会	2017年	72-77 86-89 102-105	野田市立興風図書館
28	黒田 志保子	若冲 ぞうと出会った少年	国土社	2016年	全て	野田市立南図書館
29						
30						

